

口腔保健と山本一力の世界

鶴本明久

Oral health and the World of Yamamoto Ichiriki

Akihisa Tsurumoto

拝啓

昨年の口腔衛生学会での飲み会で、疲れたときに「山本一力」を読むと心安まるようなお話しをしたような気がします。それは現在も続いてまして、そろそろ読む本がなくなってきています。文章がとてもシンプルで余計な修飾がなく読みやすいので、あたかも藤沢周平の時代劇を観ているのと同じなんだろうと考えていました。特に混雑した通勤電車で読むのにあっています。

作家山本一力は都立の工業高校を出て、様々な職業を経験し独学で直木賞作家になったという少し異色の作家です。江戸時代の庶民の日常生活を題材にしていますが、話はとてもスリリングに展開します。しかし、サムライが登場し、刀が抜かれるような場面はほとんどありません。何が面白いかというと、剣術士と同じように職人をはじめとする日々の生活者の中のプロフェッショナルがヒーローになるからだと思います。ヒーローですから時には悪い奴らを懲らしめますが、それも小気味よい胸のすくような駆け引きで小賢しい悪者をぎゃふんと言わせるのです。

山本一力が描く江戸の職人の世界は、郷愁や安

堵感だけでなく、ここのところイライラしながら捜していたものを見つけてくれたような充実感を与えてくれます。現在の日本人の多くが、すぐに対処しなければならない喫緊の課題は「環境」、「教育」、「食」と考えると思います。そのなかには、エネルギー、政治、金融、保健など様々の問題へとリンクします。ところで、江戸時代というのは食料自給率100%どころか、鎖国をしていますからすべての資源（教育、文化なども含めて）の自給率は100%なわけです。したがってエネルギーも食料も工夫に工夫をかさね大事に使っていたはずで、江戸時代の自給率100%の工夫は、長屋などに住む住民の日々の生活に基本があり、その姿を表現したものが山本一力の小説だと思えます。そこには、我々が抱えている「環境」「教育」「食料」の問題を解決させてくれるかもしれない素晴らしいアイデアがあります。無駄をしない、何事もみんなで協力する、利己的なものは許容されない、そうした規範を実践する場が「地域」なのです。それが長屋だったり、町内だったり、祭りを差配する檀家衆だったりすようです。例えば、鳶火消しを中心とする防災組織はとても見事です。これは今のNPOやボランティア組織と相通じるようなところを感じます。

「持続可能な地域社会」は、この閉塞感を打破する重要なキーワードだと確信しています。先日主催しました口腔衛生学会の関東地方会でも使わせていただきました。これまでも「地域社会」と

【著者連絡先】

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3

鶴見大学歯学部予防歯科学講座

鶴本明久

E-mail : tsurumoto-a@tsurumi-u.ac.jp

いう言葉は使われてきましたが、戦後一貫して進められてきた「地域社会」は消費と個人主義を基調とするアメリカ型のコミュニティです。このアメリカ型のコミュニティへの盲従が多くの疲労と喪失そして日本の社会にはかつてなかった粗暴な振舞をつくりだしているような気がします。健康問題や口腔保健も同様です。これらへの対処も極めて消費主義であって、「健康づくり」と「健康グッズ」が同化している健康政策ではないでしょうか。保健、福祉そして教育は個別の独立した問題ではなく一体性の強いテーマであることはヘルスプロモーション活動が示しています。この概念は欧米型の思想にはなく、何千年もの「持続可能な東洋の知恵」のなかにしか見いだすことができないと考えています。山本一力の世界は、それを江戸の庶民生活の中に具現化しています。「持続可能な福祉社会」の提案者である広井良典氏の新書と山本一力の文庫の読後感に共通のものがある理由がわかりました。江戸の自給率100%の社会は、300年続いた「持続可能な福祉社会」だったのかもしれない。

山本一力の小説には、かならず「食べ物」の話がでてきますが、それはグルメ話ではなく、今の「食育」というテーマの話です。江戸の人々は「食」を文化として、ことのほか重視します。「食

育」に悩んでいる間に、江戸深川で展開される食文化を手本にすればかなりの部分が解決されるような気がします。「だいこん」という一膳飯屋の若い女将の繁盛記がありますが、その中に老人衆の歯の状態をしっかりと考えて料理を思案する場面があります。テクスチャーや大きさは勿論、味付けや器まで配慮するんです。将来を憂慮するばかりの歯科界には、この女将の思案が足りないのではとしたりもしました。住民の口腔保健に対するニーズの分析が疎かになっているのではないかと反省しました。

これからは歯科医にとって「地域診断」が重要な役割になっていると思います。地域保健やヘルスプロモーション活動はトワイライトカテゴリーゾーン (Twilight Category Zone) の仕事だと考えています。Twilight Categoryとは数量化理論の林知己夫先生が提示された言葉です。我々は、疫学、行動科学そして社会学などを基本的ツールとするわけですが、物理学や実験科学のように明確な結論を得ることは難しく、曖昧さをも重視しながら進めていくわけです。西の空に輝くぼんやりと輝く光の方向をめざすようなものです。そういえば、山本一力の小説には「あかね空」を眺めながら明日の息災を願う場面が必ずあるというのも特徴の一つかもしれません。

Oral health and the World of Yamamoto Ichiriki

Akihisa Tsurumoto

(Tsurumi University, School of Dental Medicine, Department of Preventive Dentistry and Public Health)

Health Science and Health Care 7 (2) : 125 - 126, 2007